

ノヤマ通信

vol.48 (2026.長月)



森のようちえんヒュッテ

【7月の活動記録：2日山の基地、9日上松葉奥池ビオトープ、16日大早津海水浴場、23日桂川渓谷】

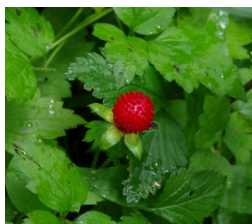
●活動を見つめるコラム

「思いやる練習」

年中児の2人の女の子のエピソードです。

Aちゃんは、お散歩の途中に花や草の実を集め、そのうちの1つをBちゃんにプレゼントしようとしていました。ところがBちゃんは、Aちゃんが差し出した花ではなく、Aちゃんが持っていた「ヘビイチゴの実」に手を伸ばし、それをポイッと草むらに捨ててしまいました。

「それ、食べれんから。ヘビさんにあげたほうがいいよ！」と。Aちゃんは、大事に持っていた実がなくなって悲しくなり、お母さんのところへ…。Bちゃんは、決して悪気があったわけではありません。ヘビイチゴがおいしくないことを知っていて、「ヘビさんにあげたほうがいい」と、親切心から草むらに放ったんです。



▲ヘビイチゴの実
毒はないが、甘味もなく一般的には「食用」として扱わない。

今回は、私がその様子を見ていたので、「Bちゃんは、ヘビイチゴが食べれんって知ったんよね？だから、ヘビさんにあげようと思ったのかな？」「でも、Aちゃんは大事に持っておきたかったんよね？」と、お互いの気持ちを確かめました。Bちゃんも少しばつが悪そうだったので、一緒に実を搜索。無事に見つけてAちゃんに返しました。

子どもたちのもめごとやケンカの多くは、こういう「すれ違い」から生まれるものなんじゃないかと思います。もし私がその場面を見ておらず、Aちゃんから「Bちゃんにヘビイチゴを捨てられた」と聞いていたら、「どうして捨てたの？」とBちゃんに聞いたと思います。でも、そのときBちゃんが、自分の考えをちゃんと言葉にできるかどうかはわかりません。

人の心は見えない。だからこそ、見えている行動だけで決めつけず、「どんな気持ちだったんだろう」と想像してみる。子どもも大人も、ずっとそんな「思いやる練習」を続けているんだなと思います。(ゆ)



▲7/9森のようちえん@上松葉奥池ビオトープ (宇和)



山の基地

【7・8月の活動記録：7/20、8/16…開放日、7/13、8/5…やまびこDAY、7/16、7/30、8/11、8/22…日常管理】

●夏休み期間中、畑の管理をしに何度か山へ。今年は雨が少なく、あまりうまく野菜が育ちませんでした。動物にやられてしまったものもあります。山間で畑を作る難しさを感じますが、1つ1つ工夫していけたらと思います。



●8月の開放日には、新たな場所にツリーデッキを作りはじめました。やっぱり、登れるところがあると、楽しいですね。



●山の基地の運営をサポートしていただくため、「ノヤマ基金」をつくりました。山の基地で活動するときに、右の写真のような募金箱を置いておきますので、よかったらカンパをお願いします。いただいたカンパは、山の基地の整備や管理にかかる費用として大切にに使わせていただきます。



✿✿ その他の活動

●えひめ自然保育連盟の交流会（7/25）

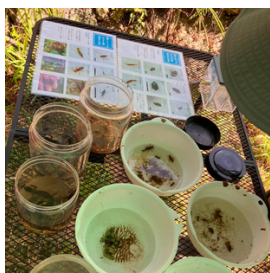
今年度から新たに3つの団体が加わった、えひめ自然保育連盟。

それぞれの活動や近況などの話題を持ち寄り、交流会を松野町で行いました。



●高川環境教室の対応（7/26）

毎年恒例の、城川町高川区のビオトープ観察会と環境学習会で、講師を務めました。今年も希少な生きものを確認することができ、良好な環境が維持されている様子がうかがえました。



●アドベンチャーみかめの対応（7/28）

三瓶地域の地域づくり活動センターによる合同事業「アドベンチャーみかめ」の講師を務めました。

小学生たちが海へ遊びに行く前に、ジオパークについて学ぶ時間を、ということで、海の地形や環境、生きものにまつわるクイズを用意しました。

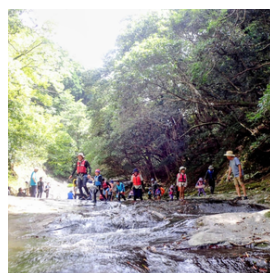
海に面した三瓶でも、昔に比べると海で泳ぐ子は減っているようで、こうした行事は貴重な機会だと感じました。



●横吹溪谷生きもの観察会&川遊び（8/1）

なんよTACさん主催のイベントで、生きものの解説を担当しました。

この溪谷には、西予では出会えない生きものがいるので、毎年楽しみです。川の水量も今年はちょうどよい感じでした。



●四国西予ジオパーク 海・里・山のフィールドラリーがスタート（8/11～）

ジオパークの新しい楽しみ方として、チェックポイントを回りながら、ミッションに挑戦する体験型のスタンプラリーを企画しました。

各々の場所での遊び方の提案を書いたパスポートを購入すると参加できます。いわゆる観光地ではない地域の自然を楽しむ文化を育む、実験的な企画です。

ぜひ体験して、感想やご意見を聞かせてください！



🐣 よもやま話

●前号の座り方をまねされたのが嫌だった子と、”尊厳”のお話の続きを。この話を夫から聞いて、私は1つの出来事を思い出しました。

2年生の終わりに、次女が明日は学校に行きたくないと話してきました。なかなか理由を話してくれなかったもので、時間をかけて尋ねてみると、今、学校で帽子とかお面を作っていて、明日完成したものを披露するファッションショーがあること、そして、自分の納得できるものができていないから、それをみんなの前で発表するのが嫌なこと。そして、作ろうと思っていたものを友達にまねされたのが嫌だったということ教えてくれました。なるほど〜と理由は分かったものの、「まねって言うのは、みんながこれいいな、素敵だなと思ってくれとるってことなんで。」とまねのポジティブな側面を話したのですが、全然納得せず・・・あ〜これは本当に休むことになりそうだなと思いながら、翌朝担任の先生にお電話しました。そしたら状況を理解して「あ〜、私も子どもたちに、いいところはどんどんまねしよう！って教室で声をかけちゃってるんですよ。」と話してくださいました。保育でも「模倣」は子どもにとって、重要な発達のしくみとして扱われているから、先生の気持ちも、次女の気持ちもわかる・・・と考え込んだ経験が、あれは”尊厳”に関わる出来事だったんだ！ととても腑に落ちました。子育てって、時間が経ってから分かることも多いですね。誌面の都合で全部は書けず、その後どうなったか気になる方は、お尋ねください🙇（ち）



<発行> 一般社団法人

ノヤマカンパニー



愛媛県西予市宇和町稲生237-1

noyama.company@gmail.com